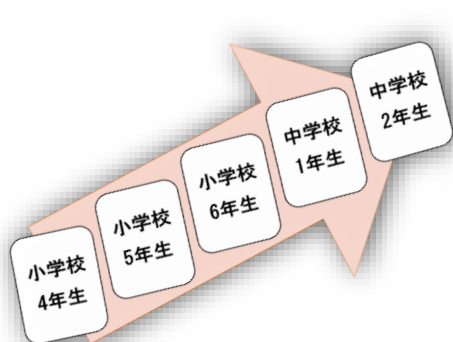


ふくしま学力調査

学力の伸びを引き出した学校の取組事例集

第3号

子どもたちが
どれだけ自分が伸びたかを実感し、
自信を深め、意欲を高め、
さらに学力を伸ばすために
「ふくしま学力調査」を実施します



ふくしま応援！
「ベコ太郎」

令和5年12月
福島県教育委員会



学力の伸びを引き出した学校の取組事例

1 趣旨

ふくしま学力調査において学力の伸びを引き出した学校の効果的な取組事例をまとめ、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校と共有することを通して、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 第3号について

第3号では小学校6年生と中学校2年生の学力の伸びに着目した取組事例を紹介する。学校の規模別に国語及び算数・数学において学力の伸びを引き出した学校から聞き取りを行い、効果が見られたと考えられる取組をまとめている。

3 学校の規模について

【小学校】

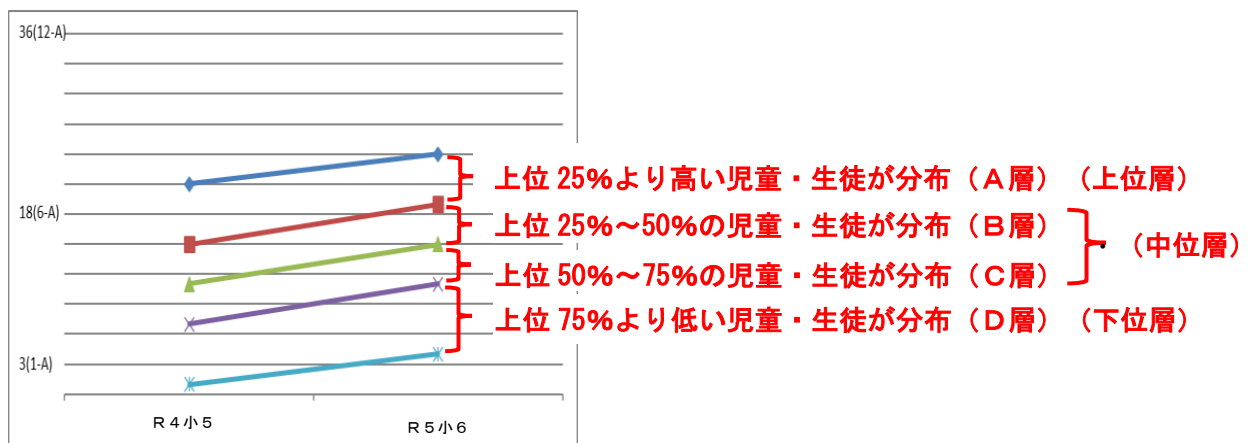
- 大規模校・・・19学級以上
- 中規模校・・・12学級～18学級
- 小規模校・・・11学級以下

【中学校】

- 大規模校・・・10学級以上
- 中規模校・・・6学級～9学級
- 小規模校・・・5学級以下

4 学年全体の学力の伸びの状況について

学年全体の学力の伸びの状況を、下図のように学力レベルの階層に分けて示している。この図により、学校の取組がどの学力層にとって効果的であったと考えられるかを可視化することができる。



- ◆ ⇒ 最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル(最大値)
- ⇒ 上位25%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- ▲ ⇒ 上位50%に位置する児童・生徒が属する学力レベル(中央値)
- × ⇒ 上位75%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- * ⇒ 最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル(最小値)

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
上位層、中位層、下位層のいずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。	上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。	上位層は伸びているが、中位層にはほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。

【国語科】 児童の思考力・表現力を育てるアウトプットを重視した授業の工夫

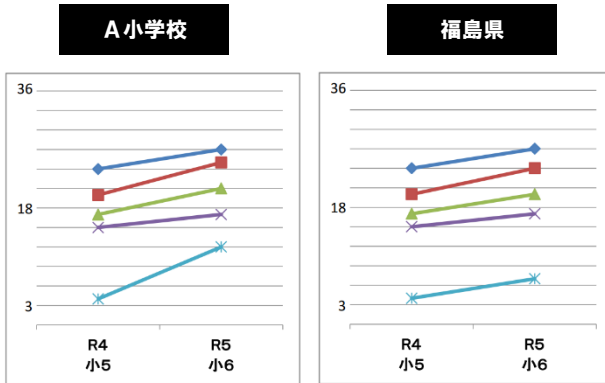
1 学校の概要

A小学校	中規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 中位層、下位層の児童の学力が伸びている。
- 特に下位層の児童の学力が伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 学習計画の確認

単元の導入時には、児童とともに学習計画を確認し、単元のめあてや身に付けたい力を児童と共有することで学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組めるようにした。

② アウトプットを重視した単元構想

身に付けさせたい力を明確にし、アウトプットの言語活動を吟味しながら、児童の実態を加味した単元を構想した。単元末に自分の考えや学習の振り返りを書き、発表や交流する活動を必ず位置付け、思考力・表現力の育成を図った。

③ 「書く」活動の工夫

条件を指定し、児童がその条件の中で考えを書けるように、独自のワークシート（100字ずつ区切って字数を分かりやすくしたもの）を活用した。段落構成や字数を意識して書く習慣を身に付けることができるようにしている。

【国語科】 国語の学びを他教科に活用させる意図的・組織的な授業の工夫

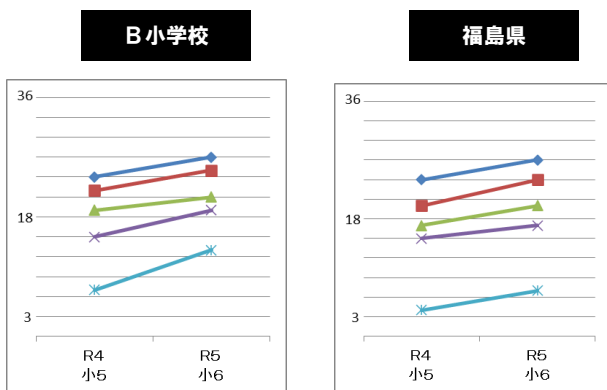
1 学校の概要

B小学校	中規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位層、中位層、下位層のいずれの層においても児童の学力が伸びている。
- 特に、C層、D層に位置する児童の学力が伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 自分の考えを書く活動の意図的な位置付け

授業の課題や発問を吟味・精選することにより、児童が根拠を明確にして自分の考えを書く時間を確保し、称賛して評価した。それにより下位児童の書く力と意欲の向上が見られた。

② 図書館教育の充実

図書コーナーを設置し、本を手に取りやすくした。ブックナビを配付して記録を蓄積したり、読書郵便で上級生が下級生に本を紹介したりして、読書の楽しさや必要感を醸成した。

③ 教科等横断的な学習と発表の場の設定

国語科で育成した資質・能力を他教科で生かすため単元配列表を作成し、総合的な学習の時間等で発表する場面を計画的に設定した。児童の「発表したい、学びたい」という学習意欲の循環が生まれ、主体的に授業に臨むようになった。

【国語科】「書くこと」による表現力を高め、主体的な学びを生み出す指導

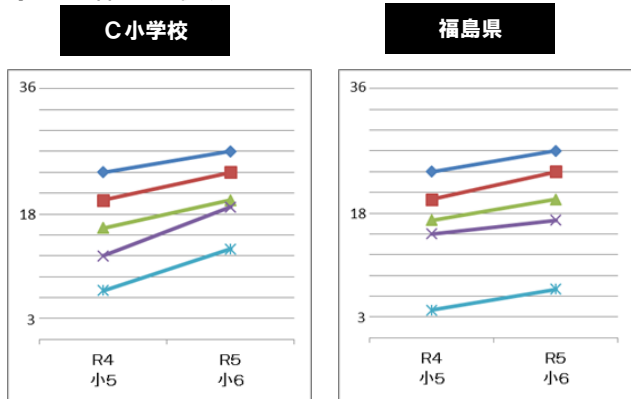
1 学校の概要

C小学校	小規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層、下位層の児童の学力が大きく伸びている。
- 中位層、下位層の児童の学力レベルが県平均と比べて高い。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 短作文を通して表現力を高める指導

「もしも作文」や「なりきり作文」など、児童が意欲的に取り組めるような課題を工夫し、100字程度の短作文を書く活動を定期的に行った。書いた作文を友達と読み合い、表現の工夫や創造的な面白さを共有し合った。

② 授業のまとめを記述して振り返らせる指導

授業のまとめを自分の言葉で記述する活動を各教科で行った。学んだことや気づきなどを継続的に記述させ、毎回、丁寧にコメントを返すことで、まとめを意識して授業に臨む姿が見られ、学びを振り返る視点が身に付いた。

③ 主体的に課題に取り組む学級づくり

自己マネジメント力を高めるため、休日の家庭学習課題を自己選択・自己決定する仕組みを定着させた。自分の弱点を見つける視点が育ち、自ら設定した課題にあきらめずに取り組む雰囲気学級全体に醸成された。

【算数科】 学び合いと多様な問題に挑む時間の確保で解決意欲を喚起する

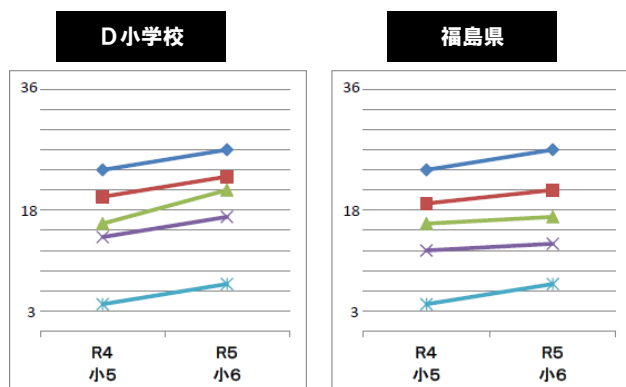
1 学校の概要

D小学校	大規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(算数科)

小学校5年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層の児童の学力が県平均に比べて伸びている。
- 特に、上位50%に位置する児童が属する学力レベルが、県平均と比べて大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 式や答えの意味を言語化する

全教科で学び合いを大切にしており、意見を聞き合い、取り入れ、広げたり深めたりするとともに、個に戻して再度考える時間を確保している。また、計算できても式や答えの意味が分からないことが多いので、「言語化してみよう」「式の意味を考えよう」など、式や答えを言葉で表す場を教師がコーディネートしている。

② 単元末に多様な問題に解き慣れる

単元末に、難易度の少し高い問題や活用力育成シート等を活用して授業を行う。特に、活用力育成シートについては解説も行う。問題に慣れることで互いのいろいろな考え方を認め合えるようになり、その中で有効なものはどれかを考えることができるようになった。「解決したい」「悩むから楽しい」という思いを醸成することにもつながっている。

【算数科】互いに学ぶことを重視した授業・家庭学習と組織的な指導体制

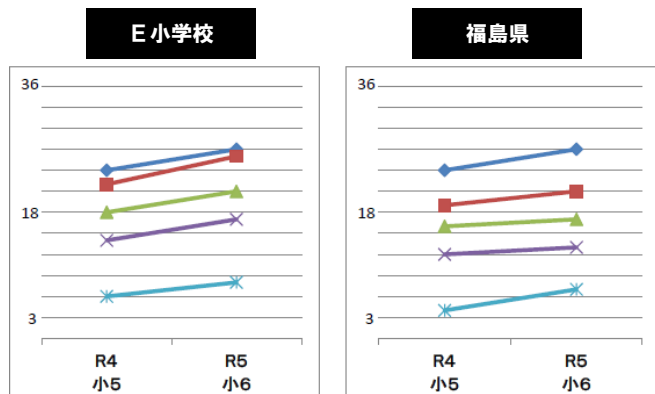
1 学校の概要

E小学校	大規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(算数科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 中位層の児童の学力が、県平均と比べて大きく伸びている。
- 中位層と下位層の児童の学力が県平均と比べて高い。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 視点を明確にした話合いの充実

話合いの視点を明確にした上で、ペアやグループでの話合いの時間を十分に確保することで、他の考えと自分の考えを比較・検討しながら、解決方法を共有させることを継続してきた。

② 教科担任制による教材研究の時間の確保

社会科、理科、音楽科、家庭科を3名の担任でそれぞれ担当している。各担任の担当教科数が少なくなったことから、算数科を中心に教材研究に取り組む時間を確保してきた。

③ 自主学習を重視した家庭学習の習慣化

家庭学習を習慣化させるために、宿題に加え自主学習を重視し、自主学習コンクールを実施したり、模範となる自主学習を印刷して配布・紹介したりして、家庭学習への意欲が持続できるようにした。

【算数科】読解力向上を視点とした授業改善により中位層の学力を伸ばす

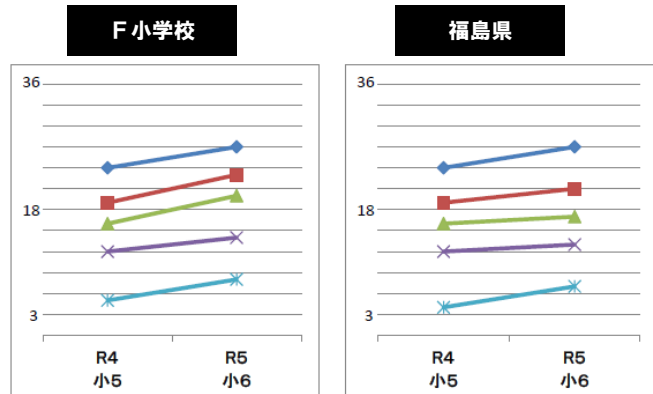
1 学校の概要

F小学校	中規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(算数科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位層、中位層、下位層のいずれの層においても、児童の学力が伸びている。
- 特に、B層の児童の学力が伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 読解力向上を視点とした授業改善

定義や性質を説明した文について、文の構造を丁寧に確認して教科書を読む活動を授業に意図的に取り入れた。汎用的な基礎的読解力を高めることにより、教科書の内容を正しく読み取る力が身に付いた。

② 自分の考えを表現する機会の設定

授業では適用問題で定着を確かめたり、「何をどのように学んだか」について見つめ直し、児童の言葉で振り返りを書かせたりすることで定着を図った。

③ 個別最適な学びによる計算力の向上

教師が「〇頁までやりましょう」と指定するのではなく、個人のペースで計算ドリルを進めてよいこととした。このことにより、中位層以上の児童の学力を伸ばすことができた。

【算数科】 児童に委ね、信じて待つことで、簡潔・明瞭・的確に表現する力を育成

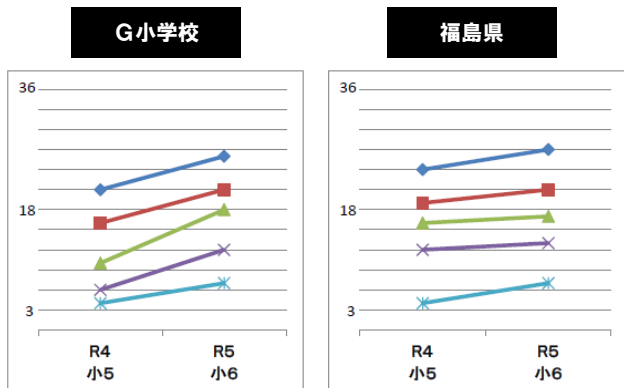
1 学校の概要

G小学校	小規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(算数科)

小学校5年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位層、中位層、下位層のいずれの層においても、児童の学力が伸びている。
- 特に、上位50%に位置する児童の属する学力レベルが大きく上がり、県平均を上回っている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 学習過程の改善

習熟の時間を確保し学習内容の確実な定着を図る。さらに、振り返りの際に関与する時間を確保することで、児童が自らの学びを意味付けたり学び方のよさを実感したりすることができるようにした。

② 学習内容の確実な定着

各種学力テストの分析により、一人一人の児童の課題を把握し、指導方法の改善に努めた。また、活用力育成シートや単元テストの定期的な実施及び ICT 機器の活用により、学習内容の確実な定着を図った。

③ 学び合いの場の設定

数学的な表現力を育てるために、少人数の強みを生かして児童に任せ・委ねる時間を多く確保した。教師が話し過ぎないことを意識し、児童同士で発言をつなげるように促したり、他の児童に再生させたりするようにした。

【国語科】「ほめて励まし、認めて伸ばす」でつくる学ぶ集団づくり

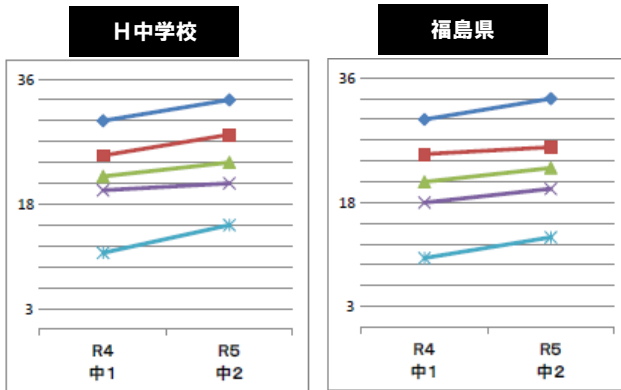
1 学校の概要

H中学校	大規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

中学校1年生→中学校2年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する生徒が属する学力レベルが県平均に比べて伸びている。
- 最も学力が低い生徒が属する学力レベルが県平均に比べて高い。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 保護者と連携した「ほめ育て」

保護者と連携して、生徒をほめたり励ましたりする言葉をかけ続けることで自主性が育ち、何事にも粘り強く取り組めるようになった。一つ一つ丁寧に取り組むよさを認めることで、学ぶ集団、安定した生活を送る集団に育っている。

② 「きく」を大切にした指導

相手の話を「聴く」、疑問点を「訊く」、気が「利く」など、学年全体で「きく」ことを大切に指導している。授業で学び合う場面では、キーワードを「どうして?」とし、互いの意見を認め合い、きき合うよう指導している。

③ 校務のスリム化

先生方がやらねばならないことを精選し、時間的余裕を生み出すことにより、授業の準備の時間、生徒が書いた文章や授業の振り返りをじっくり読む時間をつくることができた。

【国語科】生徒が協同して学び、国語科の授業が楽しい、分かると感じる授業づくり

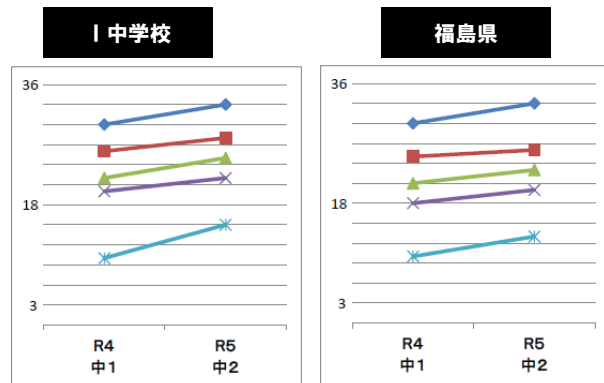
1 学校の概要

I中学校	大規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

中学校1年生→中学校2年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位50%に位置する生徒が属する学力レベルが大きく上がっている。
- 中位層の生徒の学力が県平均と比べて高い。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 生徒が主体的に、楽しんで文章を読む工夫

「読むこと」領域の学習時には、生徒が本文をじっくりと読み、考えなければ解決できないような課題提示を工夫した。さらに、自作のプレゼンテーション、動画、教師の実演などを取り入れることで、生徒の内容理解を助け、主体的に楽しんで学習できるようにしている。

② 生徒が協同して学べる学習形態

グループやU字型など、座席の配置を工夫し、生徒同士が常に聞き合い、見合い、話し合いながら協同的に学ぶことができるような学習形を工夫した。

③ 「何を学んだのか」を実感できる振り返り

単元の振り返りの時間を位置付け、教科書の「学習の窓」などを活用して、生徒自身が何を学んだのかを実感し、今後活用できる国語の汎用的な力を意識できるようにした。

【国語科】読書の習慣を定着させるための取組

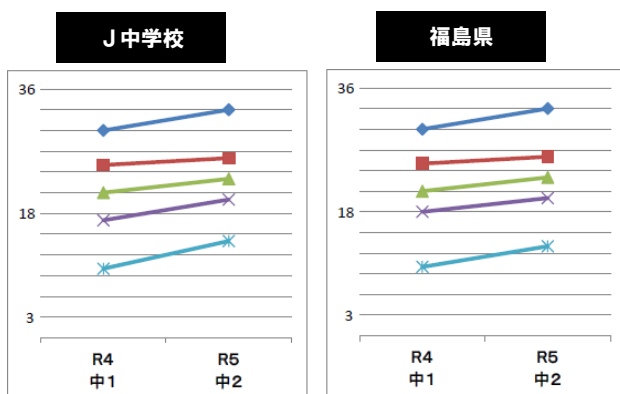
1 学校の概要

J 中学校	中規模校
-------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層、下位層の生徒の学力が伸びている。
- 最も学力が低い生徒が属する学力レベルが上がり、県平均を上回った。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 朝の読書の定着

読書の習慣を定着するために、朝の読書の時間を教育課程に位置付け、全校で確実に取り組んでいる。学年必読書を設定し、全員が年度内に3冊以上読むことができるようにした。生徒に読んでほしい本を紹介する冊子を教師が毎年発行し、内容を更新することで、できるだけ多くの本に触れることができるようにしている。読書に対する興味関心を高め、読書に親しむ態度が育成されている。

② ビブリオバトルへの参加

ビブリオバトルを生徒の発展的な学習の場と位置付け、全校で取り組んでいる。読書の質の向上を図るとともに、自分の言葉で積極的に表現しようとする態度を育て、言語意識の高まりにつながった。

【国語科】協働的、探究的な学びにより中位層から下位層の学力を伸ばす

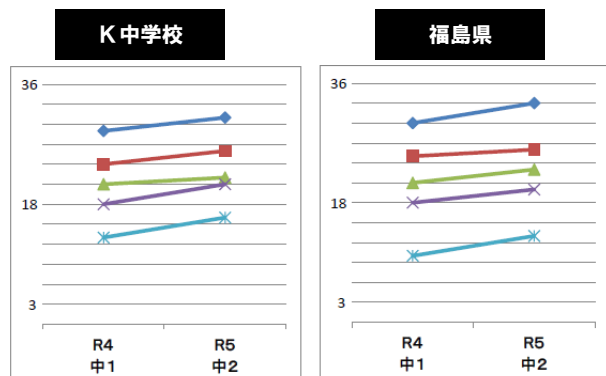
1 学校の概要

K 中学校	小規模校
-------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(国語科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位層、下位層の生徒の学力が伸びている。
- 特に、最も学力が低い生徒が属する学力レベルが、県平均に比べて高くなっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 教科の本質に即した授業づくり

国語科の学びは教材にある言葉との対話が重要であるので、言葉を抛りどころにした授業づくりを通して、資質・能力の向上を図った。

② きき合う関係による学び合い

つまづいている生徒が自ら友だちに訊き、訊かれた生徒は相手のつまづきを受け容れ、応える。生徒同士が互いの思考を言語化することで、生徒同士による双方向の「学び合い」を行った。

③ 挑戦したくなる発展的な学び

授業において、誰もが理解すべき共通の課題(教科書レベル)と基礎・基本の理解をもって挑戦する発展的な課題を取り入れることにより、中位から下位層の生徒を伸ばすことができた。

【数学科】 学力向上に向けた指導体制、指導方法の工夫

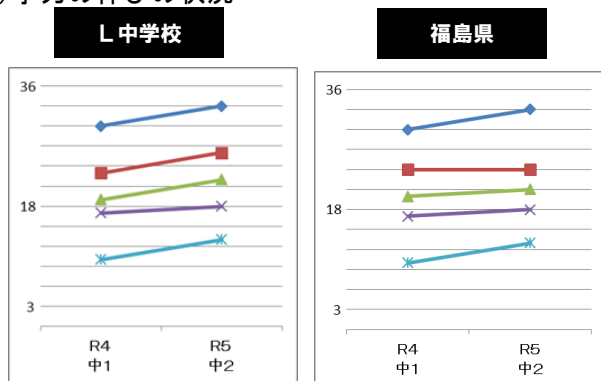
1 学校の概要

L 中学校	中規模校
-------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位層の生徒の学力が伸びている。
- 上位25%、上位50%に位置する生徒が属する学力レベルが、県平均と比べて大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 指導体制および指導方法の工夫

数学科の授業において、TT指導や習熟度別学習を導入し、個に応じた支援を推進した。全学年共通で授業のはじめに口頭で答える計算トレーニングを取り入れ、基礎的な計算力の向上を図った。

② 学習タイムの設定

定期テスト前の一定期間において、既習内容の定着を図るために、生徒が自ら、学び合いを含むテスト勉強に取り組むことができる場を設定した。

③ ICTの活用

学習支援ソフトを活用し、毎時間の振り返りを行っている。提出後、すぐに全体で共有し、互いの多様な思いや考えに触れることで、新たな課題につなげている。

【数学科】 学びの変革と学校の在り方の変革は両輪～最も重要な「授業」の充実～

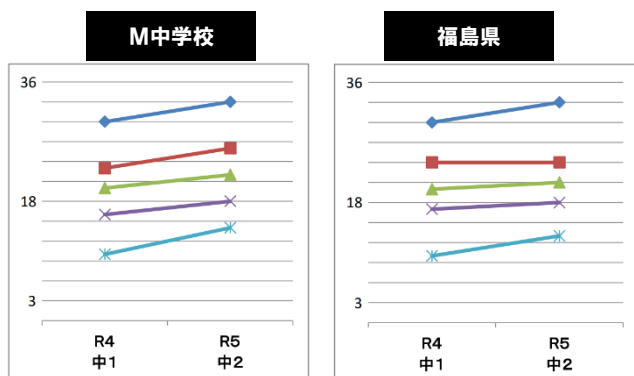
1 学校の概要

M 中学校	中規模校
-------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する生徒が属する学力レベルと最も学力が低い生徒が属する学力レベルが県平均と比べて大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 「生徒が学ぶ」授業の実現

「みんなでわかることが大事」であることを生徒と共有し、いつでも誰にでも質問できる授業を推進している。生徒が安心して主体的・対話的に学ぶ姿につながっている。

② 組織的な指導体制の整備による見取りの充実

少人数指導の選択により持ち時数を減らすことで、教材研究を充実させるとともに、数学科担当によるTT指導を実施している。きめ細かな学習状況の見取りや支援を行うとともに、指導技術や教材理解の共有により、指導力向上につながっている。

③ 全国学力・学習状況調査問題や活用力育成シートの活用による単元・授業構想

育みたい資質・能力の理解とそれらを発揮する教材や問題場面の検討のために指導者自身が活用している。各種問題をカスタマイズして単元や授業を構想することで、めざす資質・能力の育成につなげている。

【数学科】 習得状況の把握により、安心して学び合うことができる授業づくり

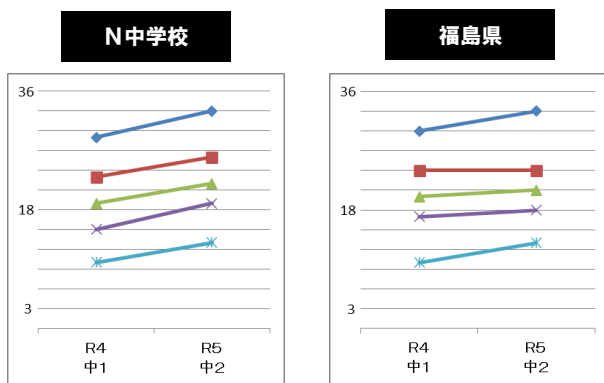
1 学校の概要

N中学校	小規模校
------	------

2 令和4年度から令和5年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



○ 上位層、中位層、下位層のいずれの層の生徒もバランスよく学力が伸びている。

○ 特に、上位層、中位層の生徒の学力が伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 小学校との接続を意識した授業づくり

各単元に入る際に既習事項を確認し、習得状況を把握した。小学校の復習を意識した発問や課題などを意図的に設定することにより、学習に対する不安の軽減を図るなど、学びの土台が整うような授業づくりを工夫した。

② 学び合う場面の設定

生徒が間違いを許容し合い、気兼ねなく発言・質問できる学習マナーづくりに努めた。温かい雰囲気の中で学び合いを行うことで、下位生徒の学習意欲向上と、上位・中位生徒の学習内容の定着が図られた。

③ 計画的な互見授業の実施

先生方の参観可能な時間を活用して、週1回互見授業による授業研究を行った。複数の教師で生徒一人一人のよさを見取り、授業後に称賛したり励ましたりしている。教職員が一丸となって生徒に関わることで、一人一人の学力向上に努めた。